

千寿にゆーす

中央集権から地域主権へ

(スケジュールと成長戦略)

原口一博 総務大臣

連休明けの6、7日。全国から約500名の自治体議員が参加し東京で標記の会議が開催されました。

鳩山総理はじめ、原口総務大臣など錚々たるメンバーの挨拶や講演がありました。全ての内容は報告できませんが、記憶に残った印象的な部分を中心に報告します。残念ですが「普天間」に関するものはありませんでした。



民主党全国自治体議員フォーラムに参加して



始めに、主催者を代表して細野豪志組織委員長が、「支持率が低下していることについて政権交代から8ヶ月マニフェストに基づいて政策を実行しているが、反省することもある。陳情、要望の回答について検討しなければならぬところも多い。しかし、公共事業については18%下げたが

地方交付税は1兆円、社会保障費も10%、教育費も5%それぞれ増やしている。天引きも過去の分は仕事でやっていくし、新規は全廃にしているなど、政策は「自公」政権下から間違いなく変わっている」ことを強調する挨拶があった。

・皆さん方は、もっとしっかりやってもいい。政権が代わった実感を感じたいという国民の声を直に聞いてほしい。予算を実施していくプロセスの中で応えていきたい。
・地域主権について補完性の原理でやっていく。国が地方を

大胆に国の仕組みを変えよう

その後、党代表の挨拶に「鳩山総理」が訪れた。その挨拶の要旨は以下のとおりです。



政治ではなく、地方の声が活かされる政治に変えていく。
・新しい公共について、例えば「消防団」はその一環である。必要な時に民間の力を活用する。また、学校の運営についても、先生をサポートする民間や地域の人々の力を活用する。これもその一環であり、一石何鳥にもなる取組である。
・今大胆に国の仕組

みを変えて行っている。その過程で国(官僚)の抵抗が強くなっているが、なんとしてもやり抜く。新たな政治を実行するには、強固な政権が必要である。そのためには、今次の参議院選がこの国をまた地域の在り方を左右する大切な選挙になる。

今日参加の皆さんの奮闘を心からお願いますと最期を結んだ内容でした。(他の講演は、次頁以降)
二日目は、「活動事例交流」と「議会改革とローカルマニフェスト」の2分科会に分かれ、討議がされました。
ただ残念だったのは高速道路の無料化や普天間問題などの政策についての質問や討議ができず鬱積としたものが残り終わったことです。



新たな成長戦略ビジョン(原口ビジョンII)について、ここが内容が多く消化不足でしたが主な所のみICT維新ビジョン
・2015年を目途に日本全世帯がブロードバンド利用実現
・今後10年間の潜在成長率約6.2%の実現
・地域のクリーンエネルギー、食糧、人、資金などを最大限活用し、自給力と創富力を高める

埋もれている資産の活用
などの内容でしたが、とても豊富過ぎて紹介できませんので次号以降再度掲載を予定します。

22年度主要事業について

今年度の主要事業について市報等でいくつか紹介されていきますが、それらを含め180事業がくまれていますので、個人的に注目しているものを中心に報告します。

No	事業名	事業費(千円)	事業概要
1	全国自治会連合会大分日田大会助成事業	1,000	平成22年10月7日に日田市で開催される全国自治会連合会大分日田大会の経費の一部を負担するもの。
2	PCB廃棄物処理事業	42,679	PCB廃棄物の適正な処理を推進するに関する特別措置法に基づき、市が保管しているPCB廃棄物の処理を行うもの。
3	日田産木材製品購入事業	5,772	市役所本庁舎、振興局の古くなった椅子やテーブル、記載台を日田産木材で作ったものに交換し、展示を兼ねて利用してもらうことで、日田産木材の良さをアピールし販売の拡大に寄与する。
4	eLTEX導入情報交換システム(国税連携)導入委託事業	6,164	課税作業の合理化、効率化が図られるシステム構築に向けて、平成23年1月から国税との連携が開始されることから、そのデータの受け入れ体制となる情報交換システムを導入する。
5	国際・地域間交流事業	2,195	APUの留学生などを介して、子供たちの多言語体験の機会や外国の文化に親しむ機会をつくる。また、友好交流協定を締結した屋久町と市民レベルの交流を推進する。
6	障がい者雇用促進推進事業	1,165	障がい者の就労面での施策の推進を図らなければならないことから、障がい者の雇用を推進するため、市役所の臨時職員として採用を行うもの。
7	地域生活支援事業(相談支援事業)	19,766	障害者自立支援法に基づき実施する地域生活支援事業のうち、障がい者福祉サービスの入口的事業であり、地域で安心して生活するためのケアマネジメントとして重要な役割を果たす「相談支援事業所」の運営を行うもの。
8	バイオエネルギー活用による液肥栽培技術開発事業	1,300	液肥の普及拡大を図るため、付加価値が高く、液肥の特徴を活かす水耕式アイスプラント野菜を使用することについての栽培技術開発を佐賀大に委託するもの。

まだ、多くの事業がありますが紙面の都合上全て紹介できません。これらの新旧事業を有効に活用することで地域の問題、課題解決につながり、また地域おこしや町づくりなると考えています。検討してください。

いかと考えます。

この時期にきているのではな

を任せていますが、市民サー

ビスの重要な課題は、直営で

の効率化で指定管理者に運営

言語道断です。市は行政業務

でこんなことが起こるとは、

た。子供の安全の最たる給食

言語道断です。市は行政業務

の効率化で指定管理者に運営

を任せていますが、市民サー

ビスの重要な課題は、直営で

という基本に立ち返って検討

する時期にきているのではな

いかと考えます。

▼給食センターの労働争議に

ついてはお知らせしましたが、

今日のテレビニュースで、学

校の給食内にネジなどが混入

していたことが報じられまし

て。子供の安全の最たる給食

でこんなことが起こるとは、

言語道断です。市は行政業務

の効率化で指定管理者に運営

を任せていますが、市民サー

ビスの重要な課題は、直営で

という基本に立ち返って検討

する時期にきているのではな

いかと考えます。

フラスワン

▼5月17日の臨時議

会中に、今宮崎県で

猛威をふるっている

「口蹄疫」の説明を

委員会でも受けました。

このまま推移すれば、

九州内の畜産業は大

打撃を蒙ります。

飼育しているもの

の一头でも感染すれば、その

飼養所の全ての頭数を殺処理

しなければならぬため、畜

産業者にとってはまさに死活

問題です。まずは感染の予防

と支援策の充実は言うに及び

ませんがこの感染源に「イノ

シシ、鹿」等があり、これら

に対する対策も早急に講じな

ければ万全を期すことにはな

らないと感じました。

行政視察報告生口

農業活性化プラン 滋賀県高島市



滋賀県高島市は琵琶湖に面し、面積は693㎏、人口は合併後で5万4千人と人口はやや少ないものの日田市と似通った市です。

日田市は以前から有機農業を取入れた日田式循環型農業を目指しています。そのため有機農業により米のブランド化を実現している高島市を視察しました。

この高島市は「たかしま有機農業研究会」を中心に、豊かな自然を活かした環境共生型の米作りを実践しています。

この研究会に所属する農家の生産したコメは「たかしま生きもの田んぼ米」としてブランド化され安定した販売額を維持しています。

農業や化学肥料の使用を厳しく制限し、田んぼの生きものたちに配慮した中干しの延期、水田魚道の設置、休耕田ビオトープ、冬季湛水等を実施し、生きものとの共生策を進めることで消費者に安心感を与え、安全なコメとの評価を受けたことがブランド化に繋がったと説明を受けた。

日田でも日田式循環型農業で生産した農産物のブランド化が必要という意見も伺いますが、容易に実現出来ないのが現状です。この研究会はコンサル会社と共同で取組を進め、生産から販売、また農法まで会社のアドバイスを取入れ今のブランド化を達成したと受け取りました。日田もブランド化を目指すには、この研究会の実践を模倣する必要があると考えました。

宇治市はかつて日産自動車の車体工場がありそれが市の製造業の中心でした。しかしこの工場の縮小に伴い、工場跡の有効利用と新たな製造業の創出の課題が持ち上がりました。そこで、宇治市が実施しているのが、ベンチャー企業育成工場という施策です。これは、縮小した工場跡を活用しその工場を8区画に分割し、そ

ものづくりベンチャー企業の未来支援 宇治ベンチャー企業育成工場

ここに新たな技術を持つ、あるいは開発する小規模なベンチャー企業を誘致し、将来その技術力で企業化するものを育成するものです。

ベンチャー企業は、成功すれば新たな中核的な製造業へ発展する可能性を秘めています。それが成功するのにか不透明な所が多く、

岩澤重夫画伯作品の保存場所についての答申が出る



新聞でも報道されましたが、「岩澤重夫記念館」について、5月17日検討委員会からクンチョウ酒蔵の一部にと内容の答申が出ました。理由は、1. 豆田地区振興協議会から重要伝統的建造物群保存地区のシンボリックな建物としての保存の要望があること。2. 岩澤重夫画伯の生家の隣であること。3. 保存、展示スペースの確保が見込める。4. 市内外の集客が見込め。となっています。個人的には、確かに適当な所に違いないと考えていますが、中央商店街からもロフトへという要望もあっただけにもう少しその点についての検討もなされて欲しかったと思っています。今後の推移と見守りたい。

5月12日の臨時議会の議事運営委員会後に、会派届出書が出され、新しい会派「新世ひた」が結成されました。メンバーは元市政クラブの赤星、石橋、吉田、飯田の4名です。ともあれ、今後の活動を期待します。

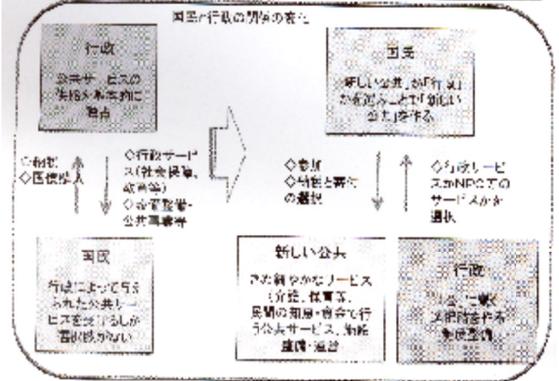
「新世ひた」

あなたらしい公共は

愛されること、ほめられること、役に立つこと、必要とされること

今回のフォーラムで一番心に響いたのは、内閣官房副長官松井孝治参議院議員の「鳩山政権の新しい公共」という講演でした。

その方向は、左図のようなイメージで、これからは単に義務を果し、その見返りに公共サービスを受取るだけ仕組みから、自ら社会的活動に参加しその中から相互の信頼関係を



築きあげる社会を目指そうとするもののようにですが、私はその内容よりもその考えに至った話に感動しました。

それは、毎年養護学校出身の生徒を雇用している川崎市の会社の社長とお寺の住職との会話で、「文字も数も読めない子どもたちです。施設にいた方がきつと幸せなのに、なぜ満員電車で揺られながら毎日遅れもせずに来て、一生懸命働くのでしょうか？」と尋ねた。

その時、住職は、「ものやお金があれば幸せだと思えますか。」「人間の究極の幸せは四つです。愛されること、ほめられること、役に立つこと、必要とされること。働くことに

よって愛以外の三つの幸せが得られるのです。」「その愛も一生懸命働くことによって得られるものだと思う。」「と答えたということでした。

これは、障がいを持った人も、難病の患者も、あるいは高齢者も、人間は人に評価され、感謝され、必要とされてこそ幸せを感じるといふことを示した逸話

「川を考える会」の中で筑後川事務所日田出張所の



話では「今年度この固定堰に『小水力発電機』を設置し発電試

として紹介されました。私もその話に共鳴しましたし、目指す社会はそうあって欲しいとも思いました。



その時の講演の様子

右の囲みは「オーマイパン給食センター」の組合員6名

心配 給食センターを巡る労働争議



の雇い止め「無効の裁判闘争支援を要請するものです。経緯は、職員の労働条件の変更等について以前から事前協議を会社に

求めてきましたが、理解されず本年2月に組合を結成、3月7日に第1回の団体交渉を行いました。しかし、翌日この6名が雇い止めの通知を受けたため、再度団体交渉で雇い止め撤回を要求しましたが叶わず、組合は大分県労働委員会にあつせん申請を行いました。しかし、会社側の理解が得られず4月23日地位保全仮処分申立を裁判所に行ったものです。裁判闘争は、長期に亘ります。この件が単なる労働争議と異なるのは、学校給食を扱う処の問題のためです。この件でスムーズな学校給食の運営が損なわれないう、監督する行政に強く要請しなければならぬと考えます。

たと思います。で、試験発電の予算はと聞いたたら「7千万」だそうです。会員のなかからは「エー」という声もでしたが、クリーンなエネルギーで日本を救うテレストと思えば、納得できます。なおこの期間は3年間で



いつの間にかすっきりしましたなぜ? 「エー」という声もでしたが、クリーンなエネルギーで日本を救うテレストと思えば、納得できます。なおこの期間は3年間で